



# CharmingTimes

特定非営利活動法人CHARM  
Center for Health and Rights of Migrants

## 目次 Index

- |    |                               |                                      |           |
|----|-------------------------------|--------------------------------------|-----------|
| 2  | HUMAN                         | 外国人母子保健事業                            | 木原琴       |
| 4  | ISSUE                         | セミナー/伴走型支援は社会的孤立に<br>どのようにアプローチしてきたか | 青木理恵子     |
| 6  | CHARM NOW                     | 「定住者のための日本語教室」を始めました                 | 横田恵子      |
| 8  | 健康に暮らしていくためのヒント               | 太いからカッコイイの健康改革                       | ジェイ アル トケ |
| 9  | おおさかもん                        | 唐揚げ特集                                | ポップ       |
| 10 | NETWORK                       | バザールカフェ                              | 狭間明日実     |
| 12 | 2018年10月～2019年3月の出来事<br>事務局から |                                      |           |

CHARMは「すべての人が健康(すこやか)に過ごせる社会」を目指して、日本にくらす外国籍住民も医療/福祉にアクセスできる環境を地域の人々や他機関とともに創っています。またHIVと共に生きる人々を多言語で支援しています。

CHARM aims for “a society where all people can live healthy lives.” To do so, we work with the local community to create an environment where foreign residents can have easy access to medical and welfare services. We also provide multi-lingual support for people living with HIV.

[www.charmjapan.com](http://www.charmjapan.com)

# The project for foreign mothers and their children

Koto Kihara

My name is Koto Kihara. I am a first year graduate student at Osaka University. I did my internship in CHARM once a week from October 2018 to January 2019. Below is a summary of what I learned and felt especially focusing on the project for foreign mothers and their children.

This project made me think about our perception of others, especially the perception we potentially have of foreigners. For this project, we held a meeting with public health nurses at a ward in Osaka cooperation. At the meeting one public health nurse saw foreigners as "not settled". It seemed like because a lot of the foreigners tend to leave the country before establishing any relationship with public health nurses, the care for foreigners was not rewarding for the public health nurses. When seen from a different viewpoint, this feeling may have occurred because the public health nurse truly wanted to build a strong relationship in the first place but experienced a support that ended due to foreigners too often leaving. I cannot be clear on why this public health nurse felt this way but it seemed that there was a perception



that made this public health nurse view foreigners as people living outside Japan, the "outsiders".

On the contrary, I've had a chance to meet with other public health nurses who were so passionate about their support for foreign mothers.

From this we see that there are lots of differences in the way we view people. And it seemed like this different perspective toward foreigners arises whether those people feel close to the foreigners or not.

I hope that there will come a day when everyone feels close to the people in their society, but until then I want to keep on learning. I am very thankful that I got to learn so much from this internship. Thank you very much.

木原琴(大阪大学大学院人間科学研究科)

2018年10月から2019年1月まで週1回インターンとしてCHARMで学ばせて頂いた大阪大学大学院の木原琴です。以下に、CHARMでの学び、特に母子保健における取り組みに携わらせて頂いた中で感じたことを報告します。

日本で暮らす外国人母子を支えるために保健師等、現場の方々と協力し行うプロジェクトに携わる中で、強く印象に残ったことはプロジェクトに携わるCHARMのプロジェクト委員の方々の熱意でした。私は、12月に行われた外国人母子保健事業プロジェクトの会議に同席しました。この会議にて印象に残ったのは、保健師の方が現場での様子をなにげなく話された姿でした。保健師の方は、来週訪問予定である母子がロシア人であることを話され、ロシア語がわからないからこそ、「はじめてのロシア語」の本を借り、簡単な挨拶等の勉強をしていることを話されました。なにげなく、当たり前のように話されましたが、丁寧に支援する親身な姿勢からは、熱い思いを感じました。また、先日1月12日に、神戸市看護大学・一般社団法人全国医療通訳者協会(NAMI)合同シンポジウムに参加しました。分科会では、母子保健の分野における多言語の支援の必要性について、保健師や助産師の方々が話されました。現場にて、外国人母子で援助が必要な人のことを少しでも理解し、より良いケアを行うため、医療通訳の必要性を実際の事例などから訴える姿からも、支援に対する熱意を感じました。

委員会に参加する以外に行政担当者とお会いする機会にも同席させていただきました。この会議は、CHARM担当者と保健福祉センターの保健師の方々が外国人母子支援の可能性について意見交換をする機会でした。その中で保健師は、言葉が通じなくてもいろいろな方法を駆使して一生懸命支援している様子が伝わってきました。一方、外国人は一生懸命関わっても定住しない、気づいたらもういないことがあると言っておられるのが印象的でした。保健師がていねいにに関わり、信頼関係を築きたいと思いながらそれができなかった経験から出た発言なのかもしれません。しかしどこかに、潜在的に外国人は日本に住んでいる人々ではない、“outsider”(外の者)であるという意識があるのではないかと感じました。

外国人母子支援を行なっている、思いには差があることがわかりました。そして、この差はその外国人を自身にとって身近に感じているかどうかの違いから生じるのではと考えました。支援に対して熱意を語られる方は、外国人のことを“outsider”と見るのではなく“知り合い”として話されているようにも感じたからです。

私は、大阪大学の大学院にて共生について研究しています。簡単に答えがみつかることではありませんが、現場から学び、自らも出会いの中で教えられ、様々な人を身近に感じていきたいと思っています。CHARMで出会い、多くのことを教えて頂いた全ての皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。



Rieko Aoki

NPO Houboku runs programs for the homeless population in Kitakyushu city. Houboku is known to be one of the best examples of support without break for the homeless population in Japan. How can it be possible? A forum was held on January 6th, 13:00-17:00, at Doshisha University where 55 people attended to learn from their experience.

Mr. Morimatsu, a veteran staff and a supporter of Houboku from the beginning of its operation says the support Houboku is providing is rebuilding human relationships beyond material support such as food and housing. The support encourages mutual responsibility instead of dependency. The support aims for the client to see their own worth. Thus, Houboku does not decline to provide support nor terminate unless a client does not need it any more.

Mr. Inazuki, a professor of Kyushu City College and a board member of Houboku says the success of Houboku's support is backed up by detailed documentation of each case, intense analysis and makes the reality visible to policy makers and to the public. The break down of human relationships can happen to anyone not just homeless population. The services of Houboku include

children, youth, working class, and elderly. The core of support is “linking”. The link is necessary for solving individual problems as various specialists and social resources are tapped for solving specific problems. The link is also important to build a more holistic society where various sectors such as local government, specialists, and civic organizations are connected to make a web of support. We also need to develop a sense of “care” for each other so that nobody feels left out or abandoned.

This model applies to people living with HIV. The network of various sectors and the sense of “care” in the community is crucial in supporting people living with HIV.

2018年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究 研究代表者 白坂瑠璃  
HIV陽性者の地方コミュニティでの受け入れに関する研究 分担研究者 武田丈  
セミナー HIV陽性者を包摂する社会を目指して

伴走型支援は社会的孤立に  
どのようにアプローチしてきたか  
ー北九州の先駆的実践に学ぶー

2019年 1 月 6 日 (日)  
会場 同志社大学今出川キャンパス良心館107教室  
開場 12:30 開始 13:00 (16:00終了予定)

本分担研究班では、HIV陽性者の社会的孤立を包摂する社会の有様を模索してきました。  
HIV陽性者が安心して暮らせる地域社会は、誰もが安心して暮らせる社会であるという立場  
から、NPO法人抱擁の活動に着目してきました。  
今年度は、北九州の伴走型支援を作ったお二人をゲストにお招きし、その取り組み  
の包括的・個別的・早期的・継続的・創造的・分権的活動等諸側面について語っていただき  
ます。ご参加の皆さんと学び語り合うセミナー形式です。

お申し込み  
野村 (ynomura@mail.doshisha.ac.jp)  
※件名に「1月6日参加希望」、本文に「お名前とご所属」をご記入の上送信ください。

## セミナー「伴走型支援は社会的孤立にどのようにアプローチしてきたか」 青木理恵子

伴走と言って思い出すのはマラソンです。長い走りに挑戦するときにランナーの隣で一緒に走りながら応援する伴走者です。視覚に障害のあるランナーの場合であれば方向を示し障害物を避ける役割も担います。人の生活を助け支える継続的な援助の中で一緒に走り続ける伴走ができるのかということに大きな疑問をいただきました。

2019年1月6日、新年も明けきらない日曜日の午後同志社大学良心館にはフォーラム「伴走型支援は社会的孤立にどのようにアプローチしてきたか」を聞くために55名が集りました。このフォーラムは、CHARMのメンバーが複数名関わる厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「HIV陽性者の地方コミュニティでの受け入れに関する研究」分担研究者武田丈[1]の研究の一環で行なわれました。

認定NPO法人抱樸(ほうぼく)の相談員森松長生さんは、北九州でホームレス支援の実践の中で目指していることを話されました。伴走型支援とは、家や食べ物が十分に与えられる物の支援ではなく、人との絆を回復することを目指しています。伴走型支援では、相手の主体性を尊重し、依存ではなく責任を負い合い、支援を断ったり切ったりしないことで相手が自らの存在意義を見出すことを目指しています。このような継続した支援が可能となるのは、同法人が生活相談、就労支援、デイサービス、生活継続支援などの多種類のプログラムを提供する福祉総合事業体であるために法人の内部が連携することで継続した支援が可能となるシステムを法人内に作ることができていることが大きいです。

認定NPO法人抱樸がこのような継続的支援モデルをつくりあげ、支援したホームレスの92%が自立を達成できた背景には、一人一人の事案を記録し、分析し、市民や行政担当者が理解できるための地道な取り組みがあることを理事の稲月正さんが説明しました。伴走型支援では、社会の全ての人々が人間関係崩壊の可能性があることから、高齢者のみならず、勤労年齢、子どもを対象とした支援を視野に入れています。伴走型支援の中で要となるのは「つなぐ」ということです。行政機関、専門家、民間の自発的グループ、企業などの組織とそれぞれの中にいる人々がつながることによって社会全体がネットのようにつながり、人が支えられ支える関係を作ります。日本の縦割り組織、申請主義、福祉と医療の壁、障害の枠組みを超える包括的社会モデルです。伴走型支援では、枠組みを整えるだけではなくその中で排除しない「こころ」を作り出していくことを目指しています。

このモデルは、HIV陽性者にも適応します。高齢化、精神疾患、家族との絶縁等により社会との関係性が希薄になることは陽性者でも少なくありません。その中で人が孤立しないためには、関わる感染症専門医療機関、精神科、在宅介護業者、行政機関、陽性者支援団体、就労支援事業所、当事者グループなどが相互に連携し合い、本人も責任を担う関係性を築くことが有効です。

---

[1]厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業『感染症およびその合併症の課題を克服する研究』研究代表者白阪琢磨、「HIV陽性者の地方コミュニティでの受け入れに関する研究」分担研究者武田丈



Keiko Yokota

“Japanese Classroom for Foreign Dwellers” is the latest program of CHARM, which was launched in May 2018.

There are plenty of Japanese classrooms and Japanese language programs available. However, even some of the foreign dwellers can do basic Japanese conversation for daily life, they do not have good command of English for vocational usage. However, the Japanese language programs addressing to the needs of those foreign dwellers who want to build up their career in the Japanese society, were definitely inadequate. For those people who missed training opportunities on official usage of Japanese language, it is not easy for

them to get into recurrent learning again. Catching the little signs of problems from those people who seem living properly without adaptation problems and addressing the possible problems which are not currently obvious, are definitely the spirit of CHARM.

Now, the students of “Japanese Classroom for Foreign Dwellers” are aiming at taking the Japanese Examination Level 3. The students acquired new learning methods which they had not experienced before. They will have individual counseling support on their life planning if they can pass the level 3 examination.



# 「定住者のための日本語教室」を始めました

CHARM理事 横田恵子

「定住者のための日本語教室」は、2018年5月から新しく始まり、週1回2時間日本語を学ぶ人と支援する人が一緒に学んでいます。協力者は、出来る限り多職種の専門家に理解と支援を求め、協力者と賛同者、そして利用者を増やしていこうという方針です。きっかけは、CHARMに関わる外国籍メンバーが日本語の読み書きができないために就職の範囲に限られるという悩みを受けて、各種の日本語教室や夜間中学校等を紹介していた事務局長の青木さんの話を聞き、大学教員と学生で何かできないかを考えたことから始めました。

「公的な場で使える日本語の能力を示すことが出来なければ、いろいろな技能を持っても、リクルート段階で入口にたどり着けない」という現実、私たちはどう対応していけば良いのでしょうか。

CHARMを訪れるメンバーは、一見、日常生活を難なくこなしているように見えながら、根幹的なところで困ったまま何十年も暮らして来られた方々だと言えるでしょう。しかし、「生活のための日本語」には不自由していません。そのため、「小学校2年生で授業にまったくついていけなくなる二世児童の問題」のように分かりやすく可視化されることがありません。あるいは、「高等教育を受けるために日本語検定1級をめざす学生ビザで来日している人々」のように母数が多くかつ画一的な教授法で成果が上がる人々とも違ってきます。

しかし、日本社会は、基本的には複数言語を公言語にする方向には向かう兆しはなく、今も(おそらくこれからも)、

多様な出自を持つ人々を、すべて「日本語という唯一のメイン言語に包摂する」ことをはっきりと示しています。

私たちが関わりを持っている外国籍メンバーは、それぞれがかけがえのない個性と技能を持っています。ある方は料理がプロ並みに上手、ある方は人を和ませる素質が際立っている、ある方は日本語さえ堪能になれば母国で培った高度な専門知を社会に生かせる・・・などなど。これらの素質や個性、技能は、もし私たち日本語話者がそれを身に付けているのであれば、当たり前のように履歴書にそのことを連ね、面接担当者に自分の特技や資格を披露し、説明し、その結果採用されるかどうかの「公正な」選抜状況に難なく参加できる類のものでしょう。

普通の主婦として地域で生きる外国籍の人々や、大人になって一世として移住してきた故に教育機会を得にくい人々でしょう。このような人々の問題をわずかなサインから捉え、今の段階では見えないとされる問題に対応していくのは、今まで同様、CHARMのスピリットでもあります。

現在、日本語教室では「日本語検定3級」をまず目指して一緒に勉強しています。生徒さんたちは、予習や復習といった、いままで経験してこなかった「学習の構え・方法」も習得しつつ、めきめきと力をつけています。もっと詳しく知りたいと思った方は、是非、CHARMにご一報ください。

そしてもちろん「生徒さん随時募集中」です！

協力者も随時募集中。

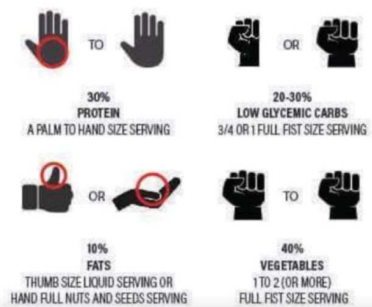


I joined Health Fiesta in Fushimi Ward Office organized by CHARM a few years ago and consulted a doctor about my foot pain which I later learned to be a gout attack. I found out that the root cause was related to my being overweight. Since then, I have tried and failed to lose weight effectively. When it comes to losing weight, everybody has an opinion. Oftentimes you'll hear people say that you should exercise a lot. Some people will say that you should eat less, others will tell you to take a pill or a supplement that will magically help you shed those extra pounds. I am not saying that these methods do not work because I have tried all of these and it worked for me temporarily. Using these methods, I could easily lose 5kg but then gain 10kg back. However, I cannot keep the weight off no matter how hard I tried. Fortunately, I came across some information that helped me in my journey to transformation. I discovered that nutrition contributes more to weight loss than exercise. It was reported that 75% of weight loss can be attributed to nutrition while only 25% is to exercise. Since then I changed my eating habits, I followed a few simple rules: 1) choose low-glycemic index (GI) foods; 2) use 40-30-20-10 plating ratios; and 3) exercise at least 30 minutes a day. For example, my meal plate will have 40% leafy green vegetables, 30% lean protein, 20% low-GI carbohydrates and 10% healthy fats. I replaced white rice with low-GI carb like quinoa or brown rice. I also replaced vegetable oil with healthier options like coconut oil or olive oil. I chose lean protein like chicken breast or fish. I lost 30kgs in 6 months by making these small changes and have kept it off since then. I am as healthy as ever compared to how I was 10 years ago and my mission now is to help others like me undergo their own health transformation journey. For more information, you can reach me at: [fitnesswarrior.jay@gmail.com](mailto:fitnesswarrior.jay@gmail.com)

## 太いからカッコイイへの健康改革

ジェイ アル トケ

数年前足に痛みを感じていた私は、CHARMが他団体と一緒に伏見総合庁舎で行なった健康フィエスタに参加し医師に相談しました。痛みは太り過ぎによって生じた痛風によるものでした。それから私は減量に努めましたが、体操をしても、食事の量を減らしても、サプリメントをのんでも一時的に5kgは減っても10kg戻るという結果にしかありませんでした。減量には栄養バランスが75%、運動が25%関わっていることが分かってから、私は食べ方を変えました。ルールは簡単です。1)血糖指数の低い食べ物を選ぶ、2)皿の上の食べ物の割合が野菜40%-良質のタンパク質30%-炭水化物20%、良質の脂肪10%の割合にする、3)1日少なくとも30分は体操をする。血糖指数の低い食べ物として白米から玄米やキノアに変えました。肉も鶏の胸肉や魚に変え、油もココナツオイルやオリーブオ



Source: Unicity Philippines MRP60

イルに変えました。その結果6ヶ月で30kg減量することができ10年前に比べてすこぶる健康です。私の役目は自分の健康改革をしたいと思っている方を助けることです。健康改革についてもっと知りたい方は、連絡してください。 [fitnesswarrior.jay@gmail.com](mailto:fitnesswarrior.jay@gmail.com)



## My top 3 Karaage Fried Chicken Places

ポップ pop



Juhachiban



Katsuo



Jagaimo

今回は筆者が大好きな「唐揚げ(からあげ)」を取り上げたいと思います。おかずでも、おやつでも、お酒のあてにもなる唐揚げはきれいな人は少ない料理の一つです。CHARM事務所近くの天満駅や天神橋筋六丁目駅界隈にも唐揚げが食べられるお店がたくさんあります。おいしい唐揚げのお店を3つ紹介したいと思います。

まず1店舗目は中華食堂「十八番」です。お手頃のお値段でお腹がいっぱいになるお店です。唐揚げを使った定食の種類が豊富で、中でも「油淋鶏(若鶏の唐揚げ薬味ソースがけ)定食(680円)」が一番のお気に入りです。ボリューム満点だけど、最後まで飽きることなく食べられます。定食の白ごはんを半人前サイズのチャーハンに変更することもできます(+50円)。(天神橋筋六丁目駅を出て、阪急オアシス天六店向かい。)

2店舗目は大分唐揚げ「勝男」の唐揚げ丼です。大分県本場の味の唐揚げが500円ワンコインでどんぶりのごはんが見えないくらい唐揚げがのっています(味噌汁付き)。安定感抜群のおいしさを味わうことができます。(天満駅から出て、商店街を北に150m)

最後は筆者がこのあたりで一番好きな手作り惣菜「じゃがいも」の唐揚げです。店内で食べることもできますが、

普段は量り売りでテイクアウトします(198円/100g)。1個が結構大きく、外はパリッと、中がジューシー、鶏にもほどよい下味が付いていて、ごはんがすすみます。あっという間に3つも4つも食べてしまいます。(天神橋筋六丁目駅を出て、商店街を南に180m)

天神橋筋六丁目には今回紹介していない唐揚げの美味しいお店がまだまだありますので、みなさんが好きな唐揚げをぜひ見つけてみてはいかがでしょうか。※詳しいお店の情報はCHARMホームページをご覧ください。

“Karaage” fried chicken is one of my favorite dishes. This is one item in the menu that a lot of people love not only as a main dish but as a snack and a side dish for alcoholic drinks. There are many restaurants and stores near our office that serve karaage. Let me introduce 3 that I recommend:

1. Chinese restaurant “Juhachiban”. You can fill your stomach with a reasonable price.
2. Oita karaage restaurant “Katsuo”.
3. “Jagaimo” is a store selling side dish items.

\*For detailed information about these places, please visit our website.

[www.charmjapan.com/2019/04/ct17osaka/](http://www.charmjapan.com/2019/04/ct17osaka/)

# Bazaar Cafe

Asumi Hazama



The Bazaar Café is located near the Kyoto Imperial palace. In 1998 the late Teruko Enomoto had the idea of creating a meeting point for HIV patients, who then had no place to go and talk for exchange and support.

At that time, the circumstances surrounding HIV/AIDS were filled with prejudice and discrimination on one hand, and on the other the medical world and those working with HIV were focused on methods for treatment. Ms. Teruko found that there was a need to focus on “restoration of self-esteem.” She thought about what could be done for HIV patients to regain the feeling that their lives still have meaning. These thoughts became a café. There were also people involved with Bazaar cafe supporting foreign residents, so foreigners experiencing difficulties living in Japan were also given support.

Today, people with different kinds of struggle come to the cafe. Aside from being open 4 times a week, various community activities are held here. This includes meetings for women dealing with addiction, study sessions for people who provide support for prisoners and music for small children and their mothers.

Since its establishment, Bazaar Café continues to provide a safe place with the philosophy of “accepting everyone as they are while respecting diverse values.” Bazaar Café is a place for healing, where people meet and make connections.

## 【Bazaar Cafe】

Address : 258 Okamatsu Cho, Kamigyo Ku, Kyoto City 602-0032 Tel: 075-411-2379



## 狭間明日実

バザールカフェは京都御所のすぐそばにあります。1998年にHIV陽性者支援をしていた故榎本てる子さんを中心に、当時行ける場所や語れる場所がなかったHIV陽性者の方が、集い語れる場所を作ろうというところから始まった場所です。キリスト教の牧師、市民団体でいろんな問題に取り組んでいた人、芸術・アートで空間を作ろうとしていた人、大学の先生など、様々な人たちが集まって一緒に作り上げました。当時HIV/AIDSを取り巻く環境は今以上に偏見・差別の渦の中にあった一方で、医療現場では治療方法が見つかり関係者たちは治療に焦点を当てていました。そのような時代の流れの中で、榎本さんは「自尊心の回復」に焦点を当てられていました。治療が確立され身体のケアができて、心が癒されていかなければ人というのは生きていくことができない。「私は生きていてもいい」と思えるために何ができるのか、ということを考え、ただ集まれる場所からカフェという形に変身していきました。バザールカフェに関わる人々の中で滞日外国人支援をしている人たちもいて、対象者は日本で生きていく中で困難を抱えている外国人も含まれていきました。

現在バザールカフェに来ている人は、様々な「生きづらさ」を抱えていることが少なくありません。いわゆる大きな社会の中で働くことが困難な人には、働く機会を提供しています。また、外に出る一步がなかなか難しい人は、外に出ること、人と話をするを目的に来られる人たちもいます。



週4日のカフェ営業のほかに、様々なネットワークづくりも行っています。依存症を抱える女性が安心して話せる場や、刑務所出所者を支援する人たちの繋がりをつくる勉強会、地域に住んでいる小さな子どもとお母さんが集えるリトミックの運営などです。様々な立場にある人が、それぞれ必要だと感じるものを安心して話し合い、つくっていける素地がある場所だと感じます。

バザールカフェは、設立当初より「誰もがありのままの姿で受け入れられ、多様な価値観を互いに尊重すること」を理念としています。それに共感する仲間、そしてカフェに来られる人たちと共に居場所の創造を続けています。バザールカフェは、何者でもない私自身と他者が出会い、交わりを持ち、そして心が解きほぐされていく、癒しの共同体なのです。

### 【バザールカフェ】

住所：京都府京都市上京区岡松町 258

TEL：075-411-2379 [www.bazaarcafe.org/](http://www.bazaarcafe.org/)



10月27日 CHARMの今後を考える会2018開催

11月 4日 ひよっこクラブ(第34期)

11月26日～12月3日 世界のHIVポスター展(北区役所)

12月 2日 エイズ学会・薬物依存症からの回復シンポジウム

1月 6日 高労科研補助金事業セミナー/

HIV陽性者を包摂する社会を目指して

2月16日 ひよっこクラブ(第35期)

2月23日 CHARM通訳研修(実践編)

3月 3日 ボランティアオリエンテーション



## 事務局から

## CHARMが実施しているプログラム

- 多言語電話相談 (06)6354-5901 16:00～20:00

火曜日 ポルトガル語、スペイン語、英語

水曜日 タイ語

木曜日 フィリピン語、英語

- ひよっこクラブ

HIV陽性とわかって間もない人のための少人数制のグループミーティングです。同じ立場の人同士が集い話をすることで、これからの生活のより良いスタートにつなげていくためのプログラムです。

- SPICA

薬物依存から回復をめざすHIV陽性の方のためのグループミーティング。薬物依存からの回復をめざすHIV陽性者が月2回集まっています。仲間と一緒に、話し、考え、今抱えている気持ちや悩みを克服してみませんか。

会員になる	Become a member
・ 賛助会員 A	Support A 3,000円
・ 賛助会員 B	Support B 5,000円
・ 法人会員1口	Corporate 10,000円
・ 正会員	Member 3,000円

## Ongoing Programs

- Multi-language Telephone Consultation (06)6354-5901

Tuesdays 16:00-20:00 Portuguese, Spanish, English

Wednesdays 16:00-20:00 Thai

Thursdays 16:00-20:00 Filipino, English

- Hiyokko Club

An orientation program in small groups for persons who are newly diagnosed with HIV. The group meets to prepare each person for living with HIV. The program is open to everyone regardless of age, sexuality and nationality. Japanese is used during the program. Please contact us if you are interested.

- SPICA

The gathering is for people who are HIV positive and recovering from drug addiction. The group shares a meal and has informal discussions in a relaxed atmosphere. The main language used is Japanese but language support can also be arranged.

## 2019年CHARM会員総会

日時：2019年6月8日（土）15:00-17:00

会場：在日大韓キリスト教大阪北部教会

講演：外国人母子支援の必要と可能性

どなたでも参加大歓迎。

事務局にお問い合わせください。

## 振込み先 Bank Transfer Information

a) 郵便振替口座 Postal Transfer Account

口座名義 Acct Name 特定非営利活動法人CHARM

口座番号 Acct No. 00960-0-96093

b) ゆうちょ銀行口座送金 Japan Post Bank Account Money Transfer

【店名 Branch Name】 ヨンゼロハチ 【店番 Branch No】 408

【種類 Type】 普通

【口座番号 Account No.】 3655236

【口座名義 Account Name】 トクヒ チャーム

翻訳者/チェック：山口樹子、張ジェイソン、Nicolle Comafay、Santa、Martyn

編集者：青木理恵子、前田圭子、藤井裕子

レイアウト：POP

発行：特定非営利活動法人CHARM 〒530-0031 大阪市北区菅栄町10-19

Tel/Fax：06-6354-5902 www.charmjapan.com